



## デジタルか紙か？ デジタルも紙も？

—— 図書館ニュース第 300 号に寄せて ——

図書館長 谷口 匡

「京教図書館ニュース」は小寺正一図書館長の時の2000年10月号が創刊であり、その後毎月1号ずつ発行されてきた。2001年2月号(第5号)より異なる執筆者が交替でお薦めの本を紹介するコーナー「私のすすめるこの1冊」が始まり、さらに寺田光世館長の2003年11月号(第38号)からは『京都教育大学紀要』に掲載された論文を執筆者が紹介する欄「論のくちび理のむすび」が新設され、両者を柱としながら毎月の図書館の催しなど最新情報を発信する月刊紙として継続し、今号でめでたく300号に到達した。

ちなみに100号を迎えたのは2009年1月号(位藤紀美子館長)、200号は2017年5月号(村上登司文館長)である。後者の時には200号を記念して『京教大50人の先生が選んだ“私のすすめるこの1冊”』という小冊子が刊行された。

「図書館ニュース」は紙媒体での発行を続けているが、バックナンバーの一部は図書館ホームページからも閲覧可能で、現時点では2004年5月号(第44号)以降のすべての号を読むことができる(図書館HP→出版物・ニュース→京教図書館 news)。むろん最新号もただちに掲載している。

この原稿を書いている今、三浦しをん原作のドラマ「舟を編む」がNHKテレビで放映中(全10話、2024年2~4月放送の再放送)で欠かさず見ている。これは中型国語辞書作りに打ち込む編集者たちの物語だが、その第6話は今どき紙の辞書は売れないからデジタルのみでよいと主張する社長に対して、紙での刊行を死守しようと編集部が奮闘するストーリーであり、印象深かった。但しこれは2011年に出版された原作にはない場面だ。

デジタルか紙か——本紙創刊から300号までの25年間での図書館をめぐる大きな変化もまさにその点にある。国立大学図書館協会の「ビジョン2025」には「学術情報資源のデジタル化」を謳うが、一方で「デジタル・非デジタルを問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にする「社会における知識基盤」を図書館の基本理念としている。デジタルか紙か、ではなく、デジタルも紙も、である。

「京教図書館ニュース」もいわばその理念を体現する情報媒体として、これからも発行してゆきたい。デジタルでも紙でも、お好みの媒体で引き続きご愛読いただければ幸いである。





## 記念すべき「図書館ニュース 300号」発行！

2000年10月に第1号を発行した図書館ニュースですが、2009年1月発行の第100号、2017年5月発行の第200号を経て、ついに300号を迎えました！創刊当初は図書館からのお知らせのみでしたが、2001年2月発行の第5号から「私のすすめるこの1冊」の連載がはじまり、2003年11月発行の第38号からは「論のくちび理のむすび」の連載もはじまりました。どちらも現在まで続く図書館ニュースの2大連載記事です。図書館ニュースはこれからも2大連載記事とともに、図書館の最新情報をお届けします！紙でも図書館HP上でもご覧いただけますので、引き続きご愛読ください！



図書館ニュース第1号

「私のすすめるこの1冊」の連載がはじまった第5号から200号までに紹介された本は、200号(2017年5月発行)に一覧を掲載しています。200号は図書館HP上でご覧いただけます。

### 図書館ニュース「私のすすめるこの1冊」一覧 No.201号~No.300号(2017年6月~2025年9月)

※推薦者の所属等は当時の所属です

発行号	発行年月	推薦者	所属	タイトル	著者等	発行所
201	2017年6月	東村知子	幼児教育科 准教授	先生はえらい	内田樹(著)	筑摩書房
202	2017年7月	柳原禎宏	教育学科 教授	働かないアリの意義がある	長谷川英裕(著)	メディアファクトリー
203	2017年8月	奥村真紀	英文学科 准教授	からくりからくさ	梨木香歩(著)	新潮社
204	2017年9月	岡田直樹	美術科 教授	古筆	小松茂美(著)	講談社
205	2017年10月	杉井潤子	家政科 教授	大事なものは見えにくい	鷲田清一(著)	角川学芸出版
206	2017年11月	林英彰	体育学科 准教授	「小池劇場」が日本を滅ぼす	有本香(著)	幻冬舎
207	2017年12月	本間友巳	教育臨床心理実践センター 教授	•ベてるの家の「非」援助論—そのままがいいと思えるための25章 •オープンダイアログとは何か	•浦河べてるの家(著) •斎藤環(著+訳)	•医学書院 •医学書院
208	2018年1月	初田幸隆	教職キャリア高度化センター 教授	逆さし世の面影	渡辺京二(著)	葦書房
209	2018年2月	相澤雅文	特別支援教育臨床実践センター 教授	サビエンス全史 文明の構造と人類の幸福 上・下	ユヴァル・ノア・ハラリ(著), 柴田裕之(訳)	河出書房新社
210	2018年3月	金森悠一	附属図書館職員	•ITパスポートのよくわかる教科書 •情報セキュリティマネジメント過去問題集：パーフェクトラーニング	•福嶋宏訓(著),原山麻美子(編) •庄司勝哉,吉川允樹	•技術評論社 •技術評論社
211	2018年4月	斎藤憲大	社会科学科 講師	東アジアの「近世」(世界史リブレット)	岸本美緒(著)	山川出版社
212	2018年5月	日野陽子	美術科 准教授	「私」を受け容れて生きる—父と母の娘—	末盛千枝子(著)	新潮社
213	2018年6月	大戸光博	学生課：就職・キャリア支援センター 客員教授	こころの処方箋	河合隼雄(著)	新潮社
214	2018年7月	伊藤伸一	産業技術科学科 准教授	科学を生きる 湯川秀樹エッセイ集(河出文庫)	湯川秀樹(著),池内了(著)	河出書房新社
215	2018年8月	高柳真人	教育キャリア高度化センター 教授	少年期の心：精神療法を通してみた影	山中康裕(著)	中央公論社
216	2018年9月	江崎俊光	理事・事務局長	日本の名作 出だしの一文	樋口裕一(著)	ゴマブックス
217	2018年10月	榎下達也	音楽科 准教授	砂場の少年(角川ソフィア文庫)	灰谷健次郎(著)	新潮社
218	2018年11月	鈴木祥子	理学科 講師	五輪書(岩波文庫)	宮本武蔵(著)	岩波書店
219	2018年12月	武田一郎	社会科学科 教授	地球はもう温暖化していない—科学と政治の大転換へ—(平凡社新書)	深井有(著)	平凡社
220	2019年1月	村上登司文	附属図書館長・教育学科 教授	日本帝国と大韓民国に仕えた官僚の回想(ちくま文庫)	任文桓(イムムナン)	筑摩書房
221	2019年2月	藤浪理恵子	理学科 講師	生命40億年全史	リチャード・フォーティ(著), 渡辺政隆(訳)	草思社
222	2019年3月	徳永俊太	連合教職実践科 教授	物語ること、生きること	上橋菜穂子,瀧晴巳	講談社
223	2019年4月	中村翼	社会科学科 講師	日本史リブレット人28 法然—貧しく劣った人びとと共に生きた僧—	平雅行(著)	山川出版社
224	2019年5月	川原田茜	数学科 講師	クルマの渋滞 アリの行列—渋滞学が教える「混雑」の真相—	西成活裕(著)	技術評論社
225	2019年6月	権真煥	家政科 講師	人工知能のきほん(Newtonライト)	Newtonムック	ニュートンプレス



226	2019年7月	増田真結	音楽科 講師	制作へ：上妻世海初期論考集	上妻世海(著)	オーバーキャスト ト エクリ編集部
227	2019年8月	飛田祥	教職キャリア高度化 センター 准教授	パパは脳研究者 子どもを育てる脳科学	池谷裕二(著)	クレヨンハウス
228	2019年9月	山内朋樹	美術科 准教授	食べたくなる本	三浦哲哉(著)	みすず書房
229	2019年10月	野間口真裕	附属図書館職員	ビッグデータ・リトルデータ・ノーデータ：研究 データと知識インフラ	クリスティン・L・ボーグマン 著；佐藤義則，小山憲司(訳)	勤草書房
230	2019年11月	高嶋隆一	理学科 教授	フーコーの振り子：科学を勝利に導いた世紀の大 実験 PENDULUM Leon Foucault and the Triumph of Science (原著2003年)	アミール・D・アクゼル(著) 水谷淳(訳)	早川書房
231	2019年12月	谷口匡	国文学科 教授	一億三千万人のための『論語』教室	高橋源一郎(著)	河出書房
232	2020年1月	平井恭子	幼児教育科 教授	絆の音楽性：つながりの基盤を求めて	スティーヴン・マロック，コ ルウィン・トレヴァーセン (編)	音楽之友社
233	2020年2月	小谷裕美	発達障害学科 教授	ケーキの切れない非行少年たち	宮口幸治(著)	新潮社
234	2020年3月	山下宏文	社会科学科 教授	「ニルス」に学ぶ地理教育：環境社会スウェー デンの原点	村山朝子(著)	ナカニシヤ出版社
235	2020年4月	榊原典子	本学名誉教授	2052 今後40年のグローバル予測	ヨルゲン・ランダース(著)，野 中香方子(訳)	日経BP社
236	2020年5月	村上登司文	附属図書館長・教育 学科 教授	日本を襲ったスペイン・インフルエンザ：人類と ウイルスの第一次世界戦争	速水融(著)	藤原書店
237	2020年6月	細川友秀	本学名誉教授	その犬の名を誰も知らない	嘉悦洋(著)，北村泰一(監修)	小学館集英社プロ ダクション
238	2020年7月	伊藤悦子	教育学科 教授	友情の哲学 緩いつながりの思想	藤野寛(著)	作品社
239	2020年8月	佐川早季子	幼児教育科 准教授	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ(著)	新潮社
240	2020年9月	染谷藤重	英文学科 講師	学習意欲の理論 動機づけの教育心理学	鹿毛雅治(著)	金子書房
241	2020年10月	山本綾乃	附属図書館職員	プリズン・ブック・クラブ・コリンズ・ベイ刑務 所読書会の一年	アン・ウォームズリー (著)， 向井和美(訳)	紀伊國屋書店
242	2020年11月	福間拓	教職キャリア高度化 センター 准教授	米内光政(新潮文庫)	阿川弘之(著)	新潮社
243	2020年12月	梶原裕二	理学科 教授	ケルトの水脈(講談社学術文庫：興亡の世界史)	原聖(著)	講談社
244	2021年1月	大竹博巳	数学科 教授	不完全性定理(岩波文庫)	ゲーデル(著)，林晋，八杉満 利子(訳・解説)	岩波書店
245	2021年2月	巻本彰一	理学科 教授	ゼロからつくる科学文明：タイムトラベラーのた めのサバイバルガイド	ライアン・ノース(著)，吉田 三知世(訳)	早川書房
246	2021年3月	天野知幸	国文学科 准教授	肉体の悪魔：失われた男(講談社文芸文庫)	田村泰次郎(著)	講談社
247	2021年4月			「なし」		
248	2021年5月	中垣ますみ	教職キャリア高度化 センター	精霊の守り人(新潮文庫)	上橋菜穂子(著)	新潮社
249	2021年6月	富永吉喜	教職キャリア高度化 センター 教授	第三の波	アルビン・トフラー(著)，鈴木 健次[ほか](訳)	日本放送出版協会
250	2021年7月	片田容子	附属図書館職員	フタバズキリュウもうひとつの物語	佐藤たまき(著)	ブックマン社
251	2021年8月	小山宏之	体育学科 准教授	勝利はすべて、ミッションから始まる	村上恭和(著)	WAVE出版
252	2021年9月	谷口和成	理学科 教授	Appleのデジタル教育：スティーブ・ジョブズが 子供に学ばせたかった	カウチ，シェイソン・タウン (著)，花塚恵(訳)	かんき出版
253	2021年10月	田中由美子	附属支援学校 副校長	はらべこあおむし	エリック・カール(作)，もり ひさし(訳)	偕成社
254	2021年11月	中俣尚己	国文学科 准教授	「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声 学入門	川原繁人(著)	ひつじ書房
255	2021年12月	林明宏	連合教職実践科 教授	理不尽に勝つ	平尾誠二(著)	PHP研究所
256	2022年1月	赤松大輔	教育学科 講師	絶対役立つ教養の心理学 展開編—人生をさらに有 意義に過ごすために—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
257	2022年2月	村上忠幸	理学科 教授	OECD Education2030プロジェクトが描く教育 の未来：エージェンシー、資質・能力とカリキュ ラム	白井俊(著)	ミネルヴァ書房
258	2022年3月	杉井潤子	家政科 教授	コミュニティの幸福論—助け合うことの社会学	桜井政成(著)	明石書店
259	2022年4月	西本有逸	英文学科 教授	太郎物語—大学編	曾野綾子(著)	新潮社
260	2022年5月	多田知正	産業技術科学科 教授	偶然的科学	ダンカン・ワッツ，青木創(訳)	早川書房
261	2022年6月	向井浩	理学科 教授	生命の惑星 —ビッグバンから人類までの地球の 進化 上、下	チャールズ・H・ラングミュ アー，ウォリー・ブロッカー(著)， 宗林由樹(訳)	京都大学学術出 版会
262	2022年7月	市田克利	京都教育大学 教職 キャリア高度化セン ター 教授	北里柴三郎 —感染症と闘いつづけた男—	上山明博(著)	青土社
263	2022年8月	児玉一宏	英文学科 教授	実践日本人の英語	マーク・ピーターセン(著)	岩波書店
264	2022年9月	佐藤克敏	発達障害学科 教授	UDL 学びのユニバーサルデザイン クラス全員 の学びを変える授業アプローチ	トレイシー・E・ホール，アン・マ イヤー，デイビット・H・ローズ (編)，バーンス・亀山静子(訳)	東洋館出版社
265	2022年10月	佐藤卓也	連合教職実践研究科 教授	逆シクラテス	伊坂幸太郎(著)	集英社
266	2022年11月	湯川夏子	家政科 教授	終止符のない人生	反田恭平(著)	幻冬舎
267	2022年12月	平石 隆敏	社会科学科 教授	寺田寅彦随筆集 第二巻	小宮豊隆(編)	岩波書店
268	2023年1月	那須一夫	附属図書館 職員	高校生からわかる「資本論」(集英社文庫)	池上彰(著)	集英社
269	2023年2月	岡田直樹	美術科 教授	一条摂政御集(複製本)	藤原伊尹(和歌) 西行(筆)	二玄社
270	2023年3月	清村百合子	音楽科 教授	和紙作家 堀木エリ子の生きる力	堀木エリ子(著)	六耀社

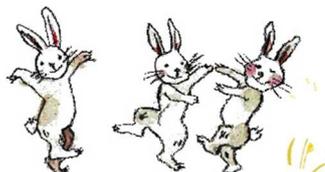
271	2023年4月				「なし」		
272	2023年5月	山下良樹	理学科 講師	女子中学生の小さな大発見	清邦彦(著)		新潮社
273	2023年6月	浜田麻里	国文学科 教授	カレンダー 学校のはる・なつ・あき・ふゆ	山本純子(著)		仮説社
274	2023年7月	高田陽子	附属京都小中学校 副校長	少しだけ、無理をして生きる	城山三郎(著)		新潮社
275	2023年8月	神崎友子	附属桃山中学校 教諭	ありがとうもごめんないもいらぬ森の民と暮らして人類学者が考えたこと	奥野克巳(著)		新潮社
276	2023年9月	香川貴志	社会科学科 教授	味わい深い京都まち歩き—歴史・地理と祭りから見た京都のまとも帖—	中田哲(著)		清風堂書店
277	2023年10月	松本歩子	家政科 講師	子どもリスペクトから始めよう！—子どもの権利が当たり前の日常へ—	山下雅彦(著)		明誠書林
278	2023年11月	梶山直美	教職キャリア高度化センター 准教授	前祝いの法則	ひすいこたろう・大島啓介(著)		フォレスト出版
279	2023年12月	田中多佳子	音楽科 教授	小泉文夫	ひのまどか(著)		ヤマハ
280	2024年1月	浅沼徹	体育学科 講師	「生き抜く力」の育て方—逆境を成長につなげるために	蝦名玲子(著)		大修館書店
281	2024年2月	宮崎充弘	数学科 准教授	AIに負けない子どもを育てる	新井紀子(著)		東洋経済新報社
282	2024年3月	山下和美	教職キャリア高度化センター 教授	さる先生の「全部やろうはバカやろう」	坂本良品(著)		学陽書房
283	2024年4月	徳岡慶一	教育学科 教授	教育観を磨く:子どもが輝く学校をめぐる旅	井藤元, 苫野一徳, 小木曾由佳(著)		日本能率協会マネジメントセンター
284	2024年5月	中村瑛仁	教育学科 講師	学校って何だろう?—教育の社会学入門—	苅谷剛彦(著)		筑摩書房
285	2024年6月	井上えり子	家政科 教授	書いてはいけない 日本経済墜落の真相	森永卓郎(著)		三五館シンヤ
286	2024年7月	亀田直記	理学科 講師	磁極反転の日	伊与原新(著)		新潮社
287	2024年8月	吉安徹	数学科 講師	数学者の思案 (岩波科学ライブラリー327)	河東泰之(著)		岩波書店
288	2024年9月	吉田竹史	附属高等学校 教諭	風をつかまえた少年	ウィリアム・カムクワンバ, ブライアン・ミラー(著)		文藝春秋
289	2024年10月	舟引遙香	美術科 講師	悪筆論 一枚の書は何を語るか—書体と文体	石川九楊(著)		芸術新聞社
290	2024年11月	小栗優貴	社会科学科 講師	なぜ働いていると本が読めなくなるのか(集英社新書)	三宅香帆(著)		集英社
291	2024年12月	小林賢太	国文学科 講師	おやすみ短歌: 三人がえらんで書いた安眠へさそってくれる百人一首	栞野浩一, pha, 佐藤文香(著)		実生社
292	2025年1月				「なし」		
293	2025年2月	相澤伸幸	本学理事・副学長	新修森有禮全集 第2巻	森有禮(著), 上沼八郎, 犬塚孝明(共編)		文泉堂書店
294	2025年3月	熊崎耕太	数学科 教授	微分方程式で数学モデルを作ろう	デヴィッド・バージェス, モラグ・ボリー(著), 垣田高夫, 大町比佐栄(訳)		日本評論社
295	2025年4月	延原理恵	家政科 教授	「いき」の構造: 他二篇(岩波文庫)	九鬼周造(著)		岩波書店
296	2025年5月	中峯浩	産業技術科学科 准教授	エネルギーをめぐる旅 文明の歴史と私たちの未来	古館恒介(著)		英治出版
297	2025年6月	大島秀武	体育学科 教授	人は話し方が9割: 1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ	永松茂久(著)		ずばる舎
298	2025年7月	中村力	数学科 准教授	1から100までのえほん	たむらたいへい(著)		戸田デザイン研究室
299	2025年8月	西園静	美術科 講師	オノ・ヨーコ 頭の中で組み立てる絵	オノ・ヨーコ(著)		淡交社
300	2025年9月				「なし」		



## 「京教大の先生が選んだ」私のすすめるこの1冊」を展示！

図書館ニュース 300号発行を記念して、「京教大の先生が選んだ」私のすすめるこの1冊」を展示しています！今まで先生方が紹介してくださった1冊の中から、現在も本学に在籍されている先生方が紹介された16冊をピックアップして展示中です。紹介された本とともに紹介文も展示しています。

紹介文を読んで本を選ぶもよし、本を読んで紹介文を読むもよし、ぜひ本を読むきっかけにしてください！





「論のくちび理のむすび」とは、本学の先生方が書かれた論文を、執筆者の先生ご本人に紹介していただく連載記事です。主に本学紀要に投稿された論文を紹介していただいています。本学紀要は一部を除いて、附属図書館 OPAC から本文を閲覧することができます。興味を持たれた方はぜひ論文の本文もご覧ください。

今回は 300 号を記念して、201 号掲載分から本号までの一覧をご紹介します！

### 附属図書館 OPAC

URL: <https://toshokyo2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/cattab.do>  
(リポジトリ検索タブから検索可能です。)



附属図書館 OPAC

「論のくちび理のむすび」の連載がはじまった第 38 号から 200 号までに紹介された論文は、200 号(2017 年 5 月発行)に一覧を掲載しています。200 号は図書館 HP 上でご覧いただけます。

**図書館ニュース「論のくちび理のむすび」一覧**  
No.201号~No.300号(2017年6月~2025年9月)

※著者の所属等は当時の所属です

発行号	発行年月	タイトル	執筆者	所属
201	2017年6月	論文執筆をめぐる著作権上の諸問題 —裁判例の分析を中心に—	比良友佳理	社会科学科 講師
202	2017年7月	クラカウアーとヴァールブルク学派(1):クラカウアーとアビ・ヴァールブルク	荻野雄	社会科学科 教授
同上	同上	クラカウアーとヴァールブルク学派(2):クラカウアーとエルヴィン・パノフスキー	荻野雄	社会科学科 教授
203	2017年8月	反応遅延間隔を導入した線画-単語カテゴリー判断課題における処理過程(2) —カテゴリー名単語呈示の効果—	田爪宏二	教育学科 准教授
204	2017年9月	X線回折装置の再起動	高嶋隆一	理学科 教授
205	2017年10月	算数科における『数と計算』から『文字・文字式』への接続に関する研究 —東アジア諸国との比較を通して—	黒田恭司	数学科 教授
206	2017年11月	発達障害児の母親の心理的負担と支援との関連について —学校生活の実態把握を通して—	内田利広	教育学科 教授
207	2017年12月	人権教育の継承と「子どもの貧困」—小・中学校教員調査を通じて—	伊藤悦子	教育学科 教授
208	2018年1月	教師の即時的意思決定過程における推論に関する事例研究—アブダクションの視点から—	徳岡慶一	教育学科 教授
209	2018年2月	シリーズ名「論のくちび理のむすび」のいわれ	村上登司文	附属図書館長、 教育学科 教授
210	2018年3月	創造的な問題解決における社会的に共有された学習の調整についての検討	伊藤崇達	教育学科 准教授
211	2018年4月	海外の教育を学ぶ視座(紹介文タイトル) 1970年代のイタリアにおける学校の変革に関する考察 —雑誌『学校実践』の分析を通して—	徳永俊太	連合教職実践研究科 准教授
212	2018年5月	化学実験における基本操作習得に関する考察 —総合的学習としての醤油から食塩の分離実験—	巻本彰一	理学科 准教授
213	2018年6月	キャリア・カウンセリングとキャリア発達理論 —現状と課題—	藤岡秀樹	教育学科 教授
214	2018年7月	発見型抑技授業プログラムの有効性の検討	藪根敏和	体育学科 教授
215	2018年8月	1917年9~10月大洪水時の伏見町	武島良成	社会科学科 准教授
216	2018年9月	4年制大学における保育実習の体験および就業意識における保育者効力感の影響	田爪宏二	教育学科 准教授
217	2018年10月	哺乳類代替動物として — アフリカツメガエルを用いた分裂細胞の検出実験 —	梶原裕二	理学科 教授
218	2018年11月	ドゥルーズの『シネマ』をクラカウアーの映画理論を通じて読む(1) — 映画の経験の映画理論 —	荻野雄	社会科学科 教授
同上	同上	ドゥルーズの『シネマ』をクラカウアーの映画理論を通じて読む(2) — 「ただ見ること」の政治学—	荻野雄	社会科学科 教授
219	2018年12月	教員の職能開発にとつてのリフレクション論の意味—1990年以降の小学校教員を対象にした文献の分析を通じて—	榊原禎宏	教育学科 教授
220	2019年1月	学校教員経験者の私立大学教職員へのリクルートメントに関する事例研究 —「大学における教員養成」の現在—	榊原禎宏	教育学科 教授
221	2019年2月	親からの期待認知と大学生のキャリア成熟との関連 —大学生の現在の居住形態に着目して—	内田利弘	教育学科 教授
222	2019年3月	学習者の意識・経験からみた体育カリキュラムのジェンダー・ポリティクス—性別二元制・異性愛主義に着目して—	井谷恵子	体育学科 教授
223	2019年4月	発泡ポリスチレンの各種有機溶媒における溶解現象について	巻本彰一	理学科 准教授
224	2019年5月	湾口砂州と砂嘴の違い	武田一郎	名誉教授
225	2019年6月	山村留学制度に関する研究 —鹿児島県の事例に焦点を当てて—	藤岡秀樹	教育学科 教授
226	2019年7月	保育者養成短期大学の学生における実習経験に対する保育者効力感の影響 —実習の進行による変化—	田爪宏二	教育学科 准教授
227	2019年8月	ドイツの学習指導要領に見られるコンピテンツ—バーデン=ヴュルテンベルク州、中等教育段階 I、音楽科の場合—	榊原禎宏	教育学科 教授
228	2019年9月	笠置町における観光の衰微とその背景 —地域活性化に向けた方策提言を含めて—	香川貴志	社会科学科 教授
229	2019年10月	プロセスレコードによる教師の自己省察とグループ省察会 —中堅中学校教員によるプロセスレコードの具体例—	角田豊	連合教職実践研究科 教授
230	2019年11月	「想像説明」に連なる実践事例の多様化の検討 —「言語活動の充実」に資する教育方法の視点から—	徳岡慶一	教育学科 教授
231	2019年12月	異なる観点からの「省察」—日本とイギリスにおける教員養成—	アンドリュー オーバーマイ ヤー	英文学科 准教授
232	2020年1月	有機化学実験のスケール化IV—サンプル管ピンを反応容器としたアゾ染料合成」、または「化学の原典の教材化 —バースツールによる光学異性体の分離実験とその教材化」	巻本彰一	理学科 教授
233	2020年2月	樋口勲次郎の『統合主義新教授法』における統合概念の検討 —明治期の教育課程の構造に着目して—	樋口とみ子	教育支援センター 准教授
234	2020年3月	日本語名詞句並列表現の構造	中俣尚己	国文学科 准教授
235	2020年4月	南西ドイツにおけるGMS (Gemeinschaftsschule「共同学校」)の展開と論点	榊原禎宏	教育学科 教授
236	2020年5月	河辺正三(ビルマ方面軍司令官)の「前史」について	武島良成	社会科学科 准教授
237	2020年6月	小規模教育再考 —複式学級の指導と小規模特認校に焦点を当てて—	藤岡秀樹	教育学科 教授
238	2020年7月	図画工作科におけるのこぎり指導の授業実践	原田信一	産業技術科学科 教授



239	2020年8月	保育者養成短期大学の学生における実習経験の印象に及ぼすメンタライゼーション能力の影響	田爪宏二	教育学科 准教授
240	2020年9月	教員の学校配置と学校間転任に関する事例研究 ―その傾向と多様性、学校政策の影響―	榊原禎宏	教育学科 教授
241	2020年10月	発達障害の可能性がある児童生徒の見立てと支援 ―「担任の見立て」と「発達履歴」の2軸による4類型から―	内田利広	教育学科 教授
242	2020年11月	鑑賞授業における編曲作品の有効な活用について ―F.リストの作品を例に―	小笠原真也	音学科 教授
243	2020年12月	近年の家庭教育政策に対する批判のあり方をめぐる問題 ―親の「第一義的責任」の位置づけに着目して―	丸山啓史	発達障害学科 准教授
244	2021年1月	6、6' -ジプロモインジゴの合成と染色 ―高校生向け実験体験の題材として―	鈴木祥子	理学科 准教授
245	2021年2月	子どもと楽器の出会いのプロセス ―幼稚園の音楽活動と小学校器楽教育の接続に着目して―	檜下達也	音楽科 准教授
246	2021年3月	ドイツの中等教育における教員の授業担当の原則 ―学級担任制と教科担任制に関する規定と学校プロフィールの検討―	榊原禎宏	教育学科 教授
247	2021年4月	社会道徳と価値観の多様性	平石隆敏	社会科学科 教授
248	2021年5月	キャンパスの自然資源とICTを活用した教員養成	今井健介	理学科 准教授
249	2021年6月	日本人若年男性における温熱的快適性評価	深沢太香子	家政科 准教授
250	2021年7月	英語の歌に対する学習者の意識とDinの発生 ―楽しい歌か、役に立つ歌か―	今西竜也	附属京都小中学校 教諭
251	2021年8月	投げ動作、受身動作を側方から観察した場合の評価の観点と、評価基準の作成	藪根敏和	体育学科 教授
252	2021年9月	「ゲオルク・ジンメル」の『ゲーテ』(1): 「自己決定」の神話を超えて	荻野雄	社会科学科 教授
同上	同上	「ゲオルク・ジンメル」の『ゲーテ』(2): 「内奥から動かされてある存在」と「原現象」	荻野雄	社会科学科 教授
253	2021年10月	小学校高学年児童における動機づけに関する調査研究: 基本的心理欲求理論と有機的統合理論の関連性を探る	染谷藤重	英文学科 講師
同上	同上	英語授業への動機づけが児童の英語力を予測するプロセス: 階層的重回帰分析を用いて	染谷藤重	英文学科 講師
254	2021年11月	教員養成課程学生における小学校プログラミング教育に関する意識調査	原田信一	産業技術科学科 教授
255	2021年12月	「なし」		
256	2022年1月	学校臨床力と教師の省察: プロセスレコードを用いた感性を磨く省察会のあり方	角田豊	連合教職実践研究科 教授
257	2022年2月	日本占領期ビルマの塩不足	武島良成	社会科学科 准教授
258	2022年3月	ブルーベリーから抽出した pH 指示薬 ―家庭でできるpH を調べる化学実験―	鈴木祥子	理学科 准教授
259	2022年4月	小学校社会科副読本にみる防災・減災関連記事の推移 ―北海道奥尻町、岩手県宮古市、和歌山県広川町を事例に―	香川貴志	社会科学科 教授
260	2022年5月	教員養成大学の学生の認知的個性が教育実習の経験に及ぼす影響 ―主免教育実習終了時における検討―	田爪宏二	教育学科 教授
261	2022年6月	保育者の「その子」の捉えに基づく3歳児クラスの素材環境構成の検討	佐川早季子	幼児教育学科 准教授
262	2022年7月	「中学生の意見文を成立させる条件に関する研究 ―「京都府教育委員会小論文グランプリ」入賞作品の「首尾」の検討を通して―	植山俊宏	附属図書館長、 国文学科 教授
263	2022年8月	教育学と未来像 ―Society5.0と環境危機社会―	丸山啓史	発達障害学科 准教授
264	2022年9月	ドイツの教職に見られる傍系からの参入 ―教職の専門性と教員資格の正当性―	榊原禎宏	教育学科 教授
265	2022年10月	寺山修司と新左翼	荻野雄	社会科学科 教授
266	2022年11月	中学校技術科のものづくり学習における生徒の原因帰属	原田信一	産業技術科学科 教授
267	2022年12月	校則の変更から見る生徒指導上の今日的課題 ―小中学校の生徒指導担当者を対象としたアンケート調査から―	片山紀子	連合教職実践研究科 教授
268	2023年1月	小中学校における統計的思考の様相 ―「気質 (dispositions)」による意思決定への影響―	竹間光宏	京都小中学校 教員
269	2023年2月	英語教師の自律性支援がエンゲージメントに及ぼす影響 ―中学校英語授業における心理的欲求を媒介として―	染谷藤重	英文学科 講師
270	2023年3月	教員による「性犯罪・性暴力等」の類型的研究 ―学校種に則した事案の検討―	森脇正博	京都教育大学附属京都 小中学校 教諭
271	2023年4月	学校臨床力を磨く事例検討会についての質的研究 ―事例検討会そのものを省察する試み―	角田豊	連合教職実践研究科 教授
272	2023年5月	教員の離職に関する量的研究 ―1976年度京都市立小学校に新規採用された教員の追跡―	榊原禎宏	教育学科 教授
273	2023年6月	デンマーク戦争(1625-29)再考 ―国のかたちという視点から―	斎藤恵太	社会科学科 准教授
274	2023年7月	教員養成大学の学生の実行機能の個性を踏まえた教育実習に対する予想の傾向 ―テキストマイニングを用いた質的検討を中心に―	田爪宏二	教育学科 教授
275	2023年8月	中学校技術科のものづくり学習における生徒の原因帰属 ―中規模校での実践―	原田信一	産業技術科学科 教授
276	2023年9月	シャン、カレンニーの帰属問題(1942~1943年) ―東条政権の「新政策」は反映されたのか―	武島良成	社会科学科 教授
277	2023年10月	多職種連携による生徒指導体制の構築 ―チーム学校の観点から―	片山紀子	連合教職実践研究科 教授
278	2023年11月	ジンメルの『レムブラント』(1) ―「生の哲学」の他者認識論―	荻野雄	社会科学科 教授
279	2023年12月	学校における靴制度と児童生徒の学校生活 ―京都市立小・中学校の事例から―	榊原禎宏	教育学科 教授
280	2024年1月	犬や猫の不妊・去勢手術をめぐる倫理的問題 ―優生保護法のもとでの強制不妊手術を念頭に置いて―	丸山 啓史	発達障害学科 准教授
281	2024年2月	知的障害特別支援学校生徒のQOL向上を図る学校教育実践に関する研究 ―新設した課外活動(部活動)を通して―	佐藤 克敏	発達障害学科 教授
282	2024年3月	大学と小学校の連携による授業実践―小学校第5学年「自動車工業」―	香川貴志	社会科学科 教授
283	2024年4月	小学校外国語における児童の動機づけとエンゲージメントの関連性 ―自己決定理論に着目して―	染谷藤重	英文学科 准教授
284	2024年5月	『言葉集』注釈(六)	小林賢太	国文学科 講師
285	2024年6月	教育実習前の大学生における実行機能の個性が実習に対する予想に及ぼす影響	田爪宏二	教育学科 教授
286	2024年7月	近世バルト海東部における二つのヴァーサ家の抗争 ―スウェーデンとポーランド=リトアニアの合同と対立―	斎藤恵太	社会科学科 准教授
287	2024年8月	生徒の成功・失敗体験と指導方法の改善に関する授業実践	原田信一	産業技術科学科 教授
288	2024年9月	「自律的な学校」を担う校長像とコンピテンシー ―ドイツの事例州における校長の任用の枠組み―	榊原禎宏	教育学科 教授
289	2024年10月	ペットと優生思想 ―犬や猫のブリーディングをめぐる問題―	丸山啓史	発達障害学科 准教授
290	2024年11月	ジンメルの『レムブラント』(2) ―「生の哲学」の芸術創造論―	荻野雄	社会科学科 教授
291	2024年12月	高齢者地域サロンにおける料理活動の導入と効果 ―介護予防の視点から―	湯川夏子	家政科 教授
292	2025年1月	教員養成大学生の教育相談における曖昧さへの態度と教師効力感 ―進路選択に対する自己効力の高低による比較―	西村佐彩子	教育学科 准教授
293	2025年2月	イタリアにおける市民性教育の変遷 ―民主主義からSDGsへ―	徳永俊太	連合教職実践研究科 准教授
294	2025年3月	井伊直弼作の能《筑摩江》の研究 ―郷土の学習教材としての視点から―	田中多佳子	本学名誉教授
295	2025年4月	元南機関員と戦後ビルマの関わり ―1950年代を中心に―	武島良成	社会科学科 教授
296	2025年5月	誰もが参加可能な音楽ワークショップの開発 ―中学校特別支援学級におけるパレット・ソノールを用いた活動―	檜下達也	音楽科 准教授
297	2025年6月	動画教材製作を支援する編集技術の基礎パッケージの開発	権真煥	家政科 准教授
298	2025年7月	『言葉集』注釈(十一)	小林賢太	国文学科 講師
299	2025年8月	近畿地区における社会教育主事講習の変遷 ―京都教育大学における講習の特徴に関する考察―	伊藤悦子	本学名誉教授
300	2025年9月	教員養成課程の大学生における実行機能の個性を踏まえた教育実習に対する自己評価の特徴 ―教育実習前半終了時の調査から―	田爪宏二	教育学科 教授

## 「2025 前期ブックハンティング」選出本を展示しています

5月21日(水)、京都丸善本店にて前期ブックハンティング(選書ツアー)が開催されました。参加は4名と小人数でしたが、バラエティー豊かな本が選ばれています。10月6日(月)まで1階渡り廊下新着図書の隣で展示しています。どなたでも自由に借りられますので、是非ご利用ください!



## 「新着電子BOOK」のポスターを掲示します

新たに購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」横で展示しています。各ポスター下側にあるQRコードは切り離し可能ですので、読みたい本/興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。なお、スマホや学外から電子書籍を利用する際は「学認でサインイン」を選択し、学内アカウントのID・パスワードを入力してご利用ください。



前回の展示

## 夏季休暇に伴う長期貸出について

学部生:7月23日(水)~9月22日(月)  
院生・教職員:7月9日(水)~9月9日(火)  
【返却期限日】10月8日(水)  
※卒業・修了予定者は9月10日(水)まで

## 9月卒業・修了生の貸出期限の延長について

2025年9月末で本学を修了する予定の方(科目等履修生・研究生・特別聴講生を含む)は、貸出期限、および返却期限日が9月10日(水)になっています。資料を借りている方は、忘れずに返却してください。ただし、9月11日(木)以降も貸出を希望される場合は、所定の手続きで、9月30日(火)まで貸出延長できます。カウンターでお尋ねください。図書館への入館・閲覧については手続き不要で、9月30日(火)まで利用可能です。

## 附属図書館公式 Instagram を開設しました!



ぜひフォローをよろしくお願いします

図書館サービスやイベントなどをお知らせし、図書館の魅力を発信するため、公式 Instagram を開設しました。アカウント名称: 京都教育大学附属図書館  
ユーザーネーム: @kyotokyoikuunivlib

### 収蔵品を出品しています

京都の大学ミュージアム特集5  
「大学の宝物2025夏」  
京都市勧業館みやこめっせ地下1階  
WEST SQUARE Window Gallery  
7月26日(土)~9月7日(日)

### 好評開催中!

第13回京都・大学ミュージアム  
連携 スタンプラリー  
8月30日(土)~2026年3月  
16日(月)  
※本学は連携参加大学です

## 児童書コーナー(南館1階)



### 今月の絵本カード(学生作)

『おぼけのてんぷら』  
作・絵: せな けいこ  
出版社: ポプラ社

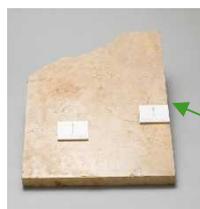


※児童書コーナーに  
かわいいカードが  
飾られています。  
ぜひ見に来てくだ  
さい。

## 教育資料館 まなびの森ミュージアム

### 【9月の開館日時】

1日(月)、8日(月)、22日(月)、29日(月) 14:00~17:00



アンモナイトの化石

### 今月の逸品(7~9月)

『旧大丸京都の壁石』

展示場所: 附属図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **田爪 宏二** (教育学科 教授)

### 教員養成課程の大学生における実行機能の個性を踏まえた教育 実習に対する自己評価の特徴：教育実習前半終了時の調査から

田爪 宏二・森田 健宏

京都教育大学紀要 2025, No.146, pp. 83-98  
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9939>



学習指導要領では、学力の一つの側面として「学びに向かう力」が示されています。これは非認知能力(社会・情動スキル)に近接したものであり、これからの予測困難な時代を生きるために大切な力として、国際的にも注目されています。そして、このような力は子どもたちだけでなく、子どもたちの教育を担う教師にとっても必要であると考えられます。

このような観点から、本論文では、教員養成課程の大学生を対象に、非認知能力を支える認知機能である「実行機能(情報の操作、選択、抑制、管理に関わる力)」に注目し、それらと教育実習との関係について検討しました。前報(京都教育大学紀要 144号)では教育実習前の調査を分析しましたが、今回は実習の前半を終えた段階での調査を行いました。対象学生にはチェックリストを用いて自身の実行機能の特徴を把握させ、そのうえで実習の成果について答えてもらいました。

統計的分析の結果、教師効力感と授業力に関する自己評価は、実習前の予想より向上していました。特に、効率的かつ柔軟に物事を処理する力や、作業を手際よく行う力が、自己評価の向上に寄与していました。さらに、テキストマイニングによる記述分析では、実行機能の特徴を踏まえつつ、実習経験を通じて具体的な教育実践に関する記述が増えていました。これらの結果から、大学生が自分の認知的個性を手がかりに、実習を通して変化や成長を実感していることが示されました。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要146号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリクエリ(KUERe)の森「<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>」に掲載されています。

開館日程 □9:00-20:00 □9:00-17:00 □10:00-17:00  
■9:00-21:00 ■休館(CLOSED)

2025年9月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

9/3 館内整理日

2025年10月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

10/1 後期授業開始  
10/18 大学院入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>  
(QRコード→)



京教図書館 News No.300 (2025年9月号)  
発行日:2025年9月1日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
問い合わせ先: [library@kyokyo-u.ac.jp](mailto:library@kyokyo-u.ac.jp)